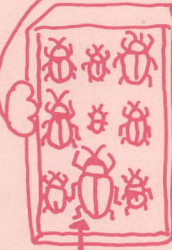
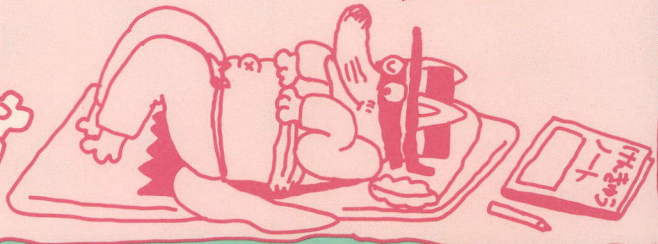
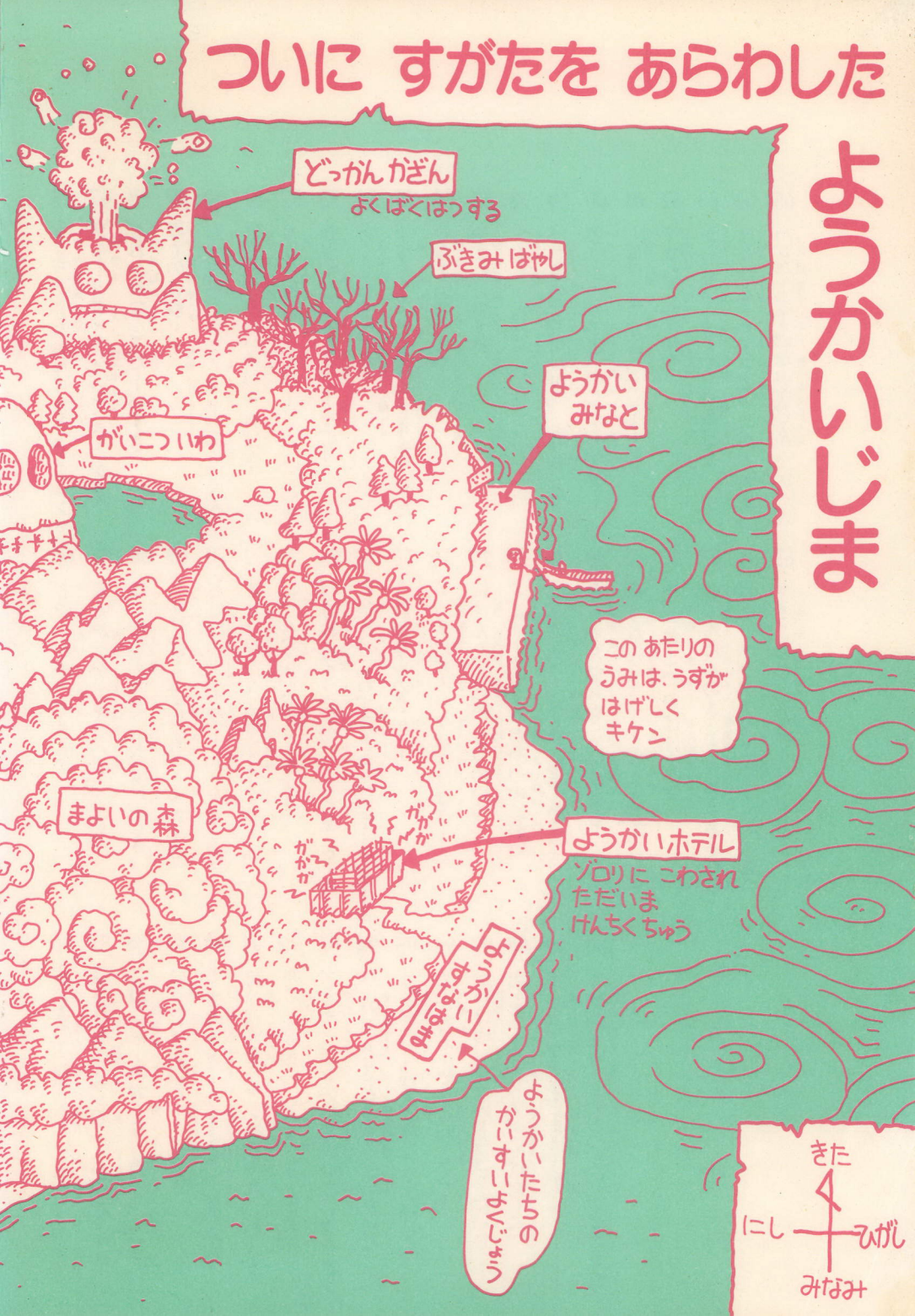
ISBN4-591-02289-7 C8093 ¥680E
ポプラ社
ポプラ社の小さな童話㉛
小学１～２年むき
定価 680円

こんちゅうさいしゅうをするなら
先生がおどろくこんなものを……
ゴキブリさいしゅう
けむしさいしゅう
まるごとむいたすいかを、ひとくちでなんこたべれるかじっけんをしてみよう
おへそをだしてねてかみなりさんがたべにくるかどうかけんきゅうしてみよう
ゴロゴロ
ゴロゴロゴロ
おれなら夏やすみにこんなけんきゅうするぜ。

ついに すがたを あらわした ようかいじま

どっかん かざん
よくばくはつする

ぶきみ ばやし

ようかい
みなと

がいこつ いわ

この あたりの
うみは、うずが
はげしく
キケン

まよいの森

ようかいホテル
ゾロリに こわされ
ただいま
けんちくちゅう

ようかい
すなはま

ようかいたちの
かいすいよくじょう

きた
にし
ひがし
みなみ

46 るなちゃんおたんじょうびキュンキュン　村井香葉 さく・え
47 フルーツポンチ はいできあがり　角野栄子・さく 佐々木洋子・え
48 おおかみなんてだーいすき　木村裕一 さく・え
49 ぼくのいぬドン　竹崎有斐・さく 西川おさむ・え
50 しょうぼうじどうしゃドコデモくん　エム・ナマエ さく・え
51 はりねずみのパチパチおばさん　舟崎靖子・さく 舟崎克彦・え
52 おばけのアッチスーパーマーケットのまき　角野栄子・さく 佐々木洋子・え
53 むかでじてんしゃケーキごう　谷 真介・さく 国井 節・え
54 あくまちゃんすき!!　鈴木悦夫・さく 阿部 肇・え
55 びっくりランドのびっくりすべりだい　谷 真介・さく 国井 節・え
56 そらとぶめだまやき　西本鶏介・さく 西川おさむ・え
57 やまねこのうみ　舟崎克彦・さく 奈良坂智子・え
58 へんし～ん ほうれんそうマン　みづしま志穂・さく 原ゆたか・え
59 うさぎのとっぴん びっくりパンク　前川かずお さく・え
60 どうぶつニュースのじかんです　木村裕一・さく 舟崎克彦・え
61 おばけのぷぷのチョコレートケーキ　谷 真介・さく 国井 節・え
62 やまねこの1年生　舟崎克彦・さく 奈良坂智子・え
63 かいじゅうランドセルゴン　大石 真・さく 阿部 肇・え
64 ほうれんそうマンよいこの1年生　みづしま志穂・さく 原ゆたか・え
65 ハンバーガーぷかぷかどん　角野栄子・さく 佐々木洋子・え
66 おやつがやってきた　木村裕一 さく・え
67 おえかきケーキでつくったら　谷 真介・さく 国井 節・え
68 ほうれんそうマンのおばけやしき　みづしま志穂・さく 原ゆたか・え
69 おばけのアッチこどもプールのまき　角野栄子・さく 佐々木洋子・え
70 おばけのソッチラーメンをどうぞ　角野栄子・さく 佐々木洋子・え
71 まじょがつくったアイスクリーム　上崎美恵子・さく 佐竹美保・え
72 にゃんたんのなぞ?なぞ?　巻 左千夫・さく 岡田日出子・え
73 ほうれんそうマンのじどうしゃレース　みづしま志穂・さく 原ゆたか・え
74 8ひきのこねずみと8このチーズケーキ　谷 真介・さく 国井 節・え
75 こわがりやの2年生　宮川ひろ・さく ゆーちみえこ・え
76 アッチのオムレツぽぽぽぽぽーん　角野栄子・さく 佐々木洋子・え
77 にゃんたんのめいろめいろ　巻 左千夫・さく 岡田日出子・え
78 くんくんもりはおやつのにおい　すずきのぶよ・作 つちだよしはる・え
79 くまの子ウーフミミちゃんといっしょ　神沢利子・さく 井上洋介・え
80 そらでおならをしたかえる　西本鶏介・さく 安田卓矢・え
81 ほうれんそうマンのようかいじま　みづしま志穂・さく 原ゆたか・え
82 やまねこのおばけ大会　舟崎克彦・さく 奈良坂智子・え
83 にゃんたんのきょうりゅうあそび　巻 左千夫・さく 岡田日出子・え
84 おばけのソッチおよめさんのまき　角野栄子・さく 佐々木洋子・え
85 うさぎのとっぴんパイロットだ!　前川かずお さく・え
86 8ひきのこねずみといたずらクッキー　谷 真介・さく 国井 節・え
87 ほうれんそうマンのようかいがっこう　みづしま志穂・さく 原ゆたか・え
88 こねこムーのおくりもの　江崎雪子・さく 橋本淳子・え
89 にゃんたんのゲームブック　巻 左千夫・さく 岡田日出子・え
90 くまの子ウーフミミちゃんのみみ　神沢利子・さく 井上洋介・え
91 ほうれんそうマンのゆうれいじょう　みづしま志穂・さく 原ゆたか・え
92 車のいろは空のいろ きこえるよ○(まる)　あまんきみこ・さく つちだよしはる・え
93 アッチとボンのいないいないグラタン　角野栄子・さく 佐々木洋子・え
94 にゃんたんのゲームブック どきどきようかいたいじ　巻 左千夫・さく 岡田日出子・え
95 うさぎのとっぴんとプリンかいじん　前川かずお さく・え
96 えっちゃんとこねこムー　江崎雪子・さく 橋本淳子・え
97 かいけつゾロリのドラゴンたいじ　原ゆたか さく・え
98 おこさまランチがにげだした　角野栄子・さく 佐々木洋子・え
99 にゃんたんのゲームブック なぞなぞまほうがっせん　巻 左千夫・さく 岡田日出子・え
100 くまの子ウーフおつかいかぞえうた　神沢利子・さく 井上洋介・え

ポプラ社の

小さな童話

1. やまねこのほし　舟崎克彦・さく　奈良坂智子・え
2. 1年生っていいね　宮川ひろ・さく　田中槇子・え
3. たぬきのふろしき　舟崎克彦　さく・え
4. しっぽのブンブン　舟崎靖子・さく　舟崎克彦・え
5. ちゅーたのクリスマス　ヒサクニヒコ　さく・え
6. スパゲッティがたべたいよう　角野栄子・さく　佐々木洋子・え
7. ○△（まるさんかく）ジャンボかいじゅう　木村裕一　さく・え
8. ハンバーグつくろうよ　角野栄子・さく　佐々木洋子・え
9. 先生にはないしょ　宮川ひろ・さく　長谷川知子・え
10. なきべそ おおかみ　舟崎克彦・さく　橋本淳子・え
11. だんちどうぶつえん　大石　真・さく　伊勢英子・え
12. ソフトクリームとっきゅう　矢玉四郎・さく　井沢洋二・え
13. カレーライスはこわいぞ　角野栄子・さく　佐々木洋子・え
14. まほうのハンカチ　竹崎有斐・さく　渡辺洋二・え
15. ゆきだるまゆうびん　那須正幹・さく　高畠　純・え
16. にじのすべりだい　山下夕美子・さく　遠藤てるよ・え
17. コロコロちゃんはおいしそう　木村裕一　さく・え
18. まねっこ1年生　宮川ひろ・さく　山本まつ子・え
19. どんなケーキがいいかしら　谷　真介・さく　国井　節・え
20. おばけのコッチ ピピピ　角野栄子・さく　佐々木洋子・え
21. おばけのソッチ ぞびぞびぞー　角野栄子・さく　佐々木洋子・え
22. でかのっぽくん　有吉忠行・さく　黒井　健・え
23. 王さまはちびちゃんだって　木村裕一・さく　岡本颯子・え
24. べんきょうすいとり神　那須正幹・さく　西川おさむ・え
25. ピザパイくんたすけてよ　角野栄子・さく　佐々木洋子・え
26. うさぎのとっぴん　前川かずお　さく・え
27. ママってずるーい　生源寺美子・さく　小林和子・え
28. おばけのアッチねんねんねんね　角野栄子・さく　佐々木洋子・え
29. うたうケーキはどうかしら　谷　真介・さく　国井　節・え
30. ふしぎなおはなししようかな?　竹崎有斐・さく　奈良坂智子・え
31. ぺけぺけシールなんかこわくない　山下夕美子・さく　永井泰子・え
32. エビフライをおいかけろ　角野栄子・さく　佐々木洋子・え
33. ダイコンさんとトマトさん　小沢　正・さく　織茂恭子・え
34. にげだしたおやつ　木村裕一　さく・え
35. おばけのコッチあかちゃんのまき　角野栄子・さく　佐々木洋子・え
36. にじのケーキはおいしいかしら　谷　真介・さく　国井　節・え
37. ぼくおふろだいきらい　筒井敬介・さく　渡辺洋二・え
38. あかいぼうしのハイキング　谷　真介・さく　多田ヒロシ・え
39. おばけのソッチ1年生のまき　角野栄子・さく　佐々木洋子・え
40. おねしょのちずはヘンテコリン　山下夕美子・さく　こもりかおる・え
41. うさぎのとっぴんとゆきおとこ　前川かずお　さく・え
42. コロコロちゃんのめいろはこわいぞ　木村裕一　さく・え
43. カレーパンでやっつけよう　角野栄子・さく　佐々木洋子・え
44. るなちゃんだいすきキュンキュン　村井香葉　さく・え
45. ホットケーキでゆうえんち　谷　真介・さく　国井　節・え

ポプラ社の小さな童話81

ほうれんそうマンのようかいじま

一九八六年 七月 第1刷
一九八八年 十月 第13刷

作　家　みづしま志穂
画　家　原　ゆたか
発行者　田中治夫
編　集　坂井宏先・井澤みよ子
発行所　株式会社　**ポプラ社**
東京都新宿区須賀町五　〒一六〇
TEL　東京　〇三―三五七―二二一一（代）
振替・東京　四―一四九二七一
印　刷　瞬報社写真印刷株式会社
製　本　富士製本株式会社

913　みづしま志穂
ほうれんそうマンのようかいじま
ポプラ社　1988
86p　22cm
ポプラ社の小さな童話81

ISBN4-591-02289-7

●作家紹介

みづしま志穂（みづしましほ）

一九五二年、鹿児島県に生まれる。「つよいぞポイポイきみはヒーロー」で第七回毎日童話新人賞「好きだった風　風だったきみ」で第三十二回毎日児童小説賞・日本児童文学者協会新人賞を受賞する。作品に「ほうれんそうマン」シリーズなどがある。

●画家紹介

原ゆたか（はらゆたか）

一九五三年、熊本県に生まれる。七四年KFSコンテスト・講談社児童図書部門賞受賞。主な作品に、「ちいさなもり」「マータンはまさおくん」「てぶくろロケットの宇宙探険」「たからのげた」「ぷうのおつかい」「ぼくのもパパみたいになるのかな」「ほうれんそうマン」シリーズなどがある。

そうだ、このゾロリさまと
ようかい学校のゆうしゅうなせいとが
あつまれば、
ほうれんそうマンが
ひゃくにんかかってきても、
へいきだぞ。
ゾロリファンのしょくん！
もうつぎの本を
本やさんによやく
しといたほうがいいぞ!!
ようかいグモ
ようかいくぎ
ようかいでんわ
ようかいえんぴつ
ようかいねずみのあな
ようかいコンセント
ようかいゴキブリ
ようかいざかなのほね
ようかいストロー
ぶきみなあじ
ようかいジュース
ようかいけしごむ
ようかいがっこう
ゆうしゅうな
せいとアルバム
だい1きせい
ようかいがっこうゆうしゅうなせいとアルバム
1
・・・・・・・

ゾロリは、すいかわりマシーンの
ガソリンが　きれるまで、ようかいじまの
なかを　三日かんも　にげまわって
いました。そして　くたくたに　なった
ところを、やっと　ようかい学校の
先生に　たすけられたのでした。

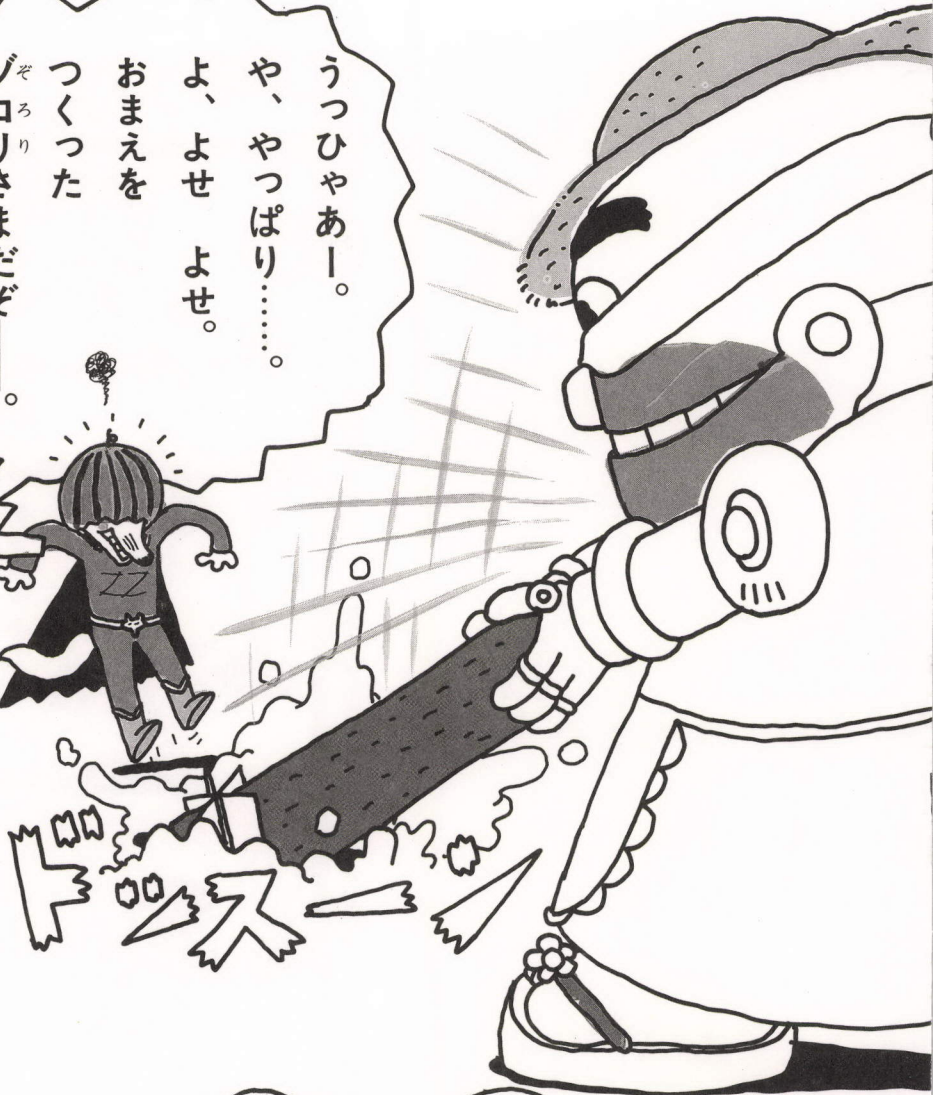
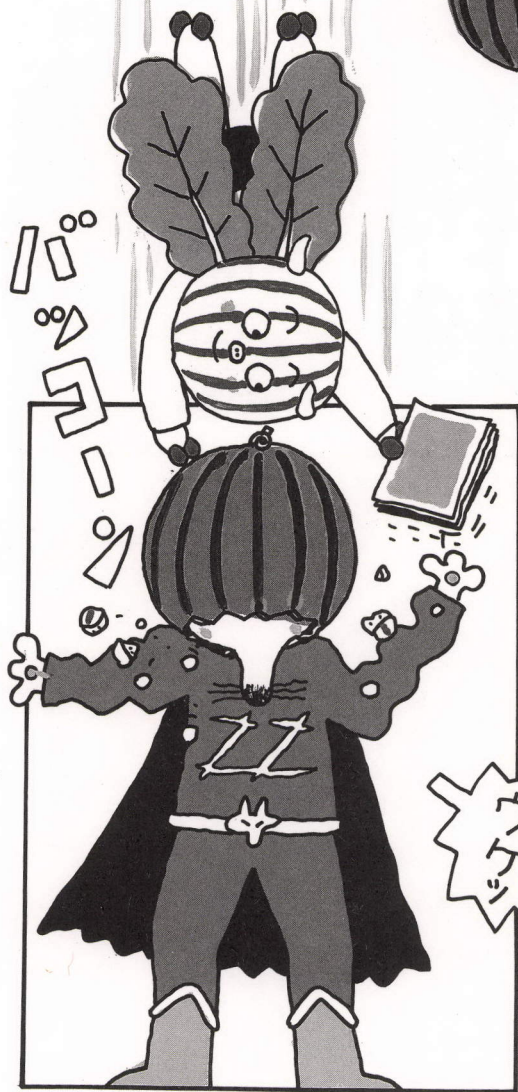
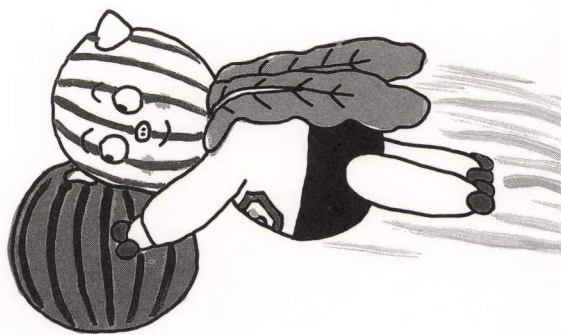
ゾロリどのに
ごおんがえしを
しなくてはと、
おもっていた
ところでした。

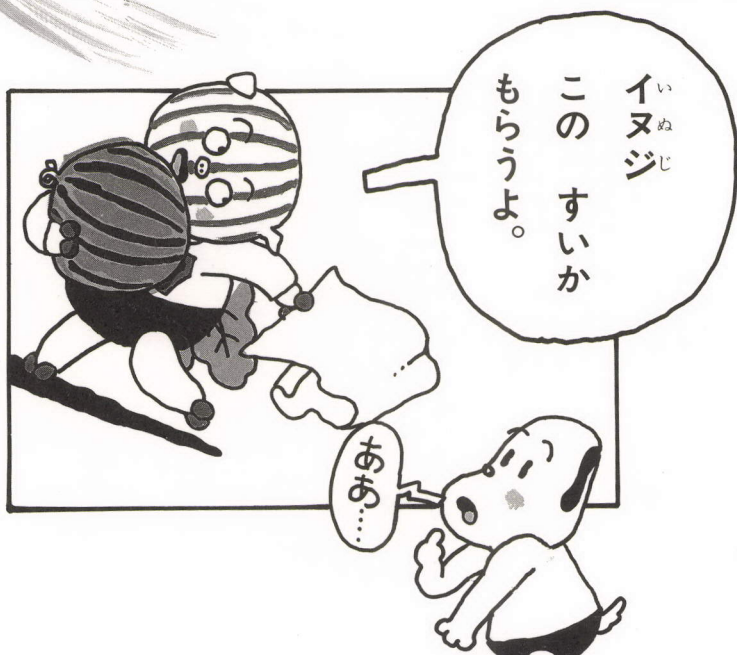
すいかわり
マシーンの
わった
すいかで
すいかパーティ
きひらき
ました。

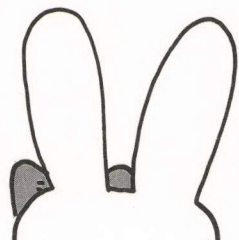
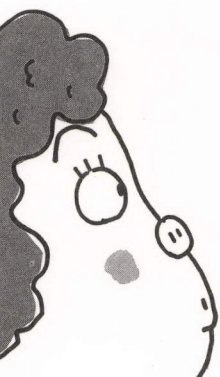
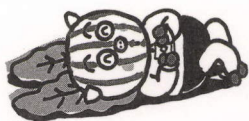
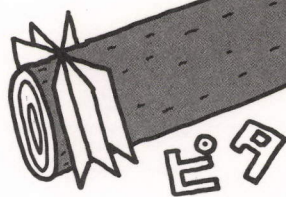
すみれ

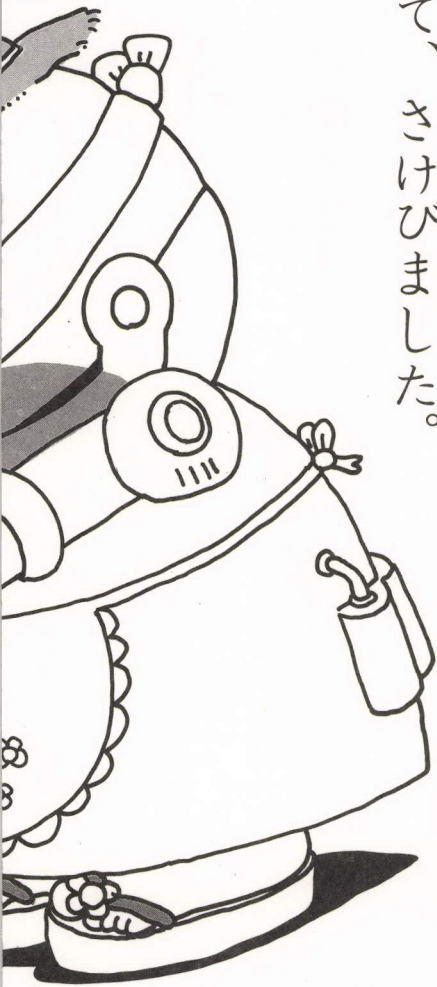
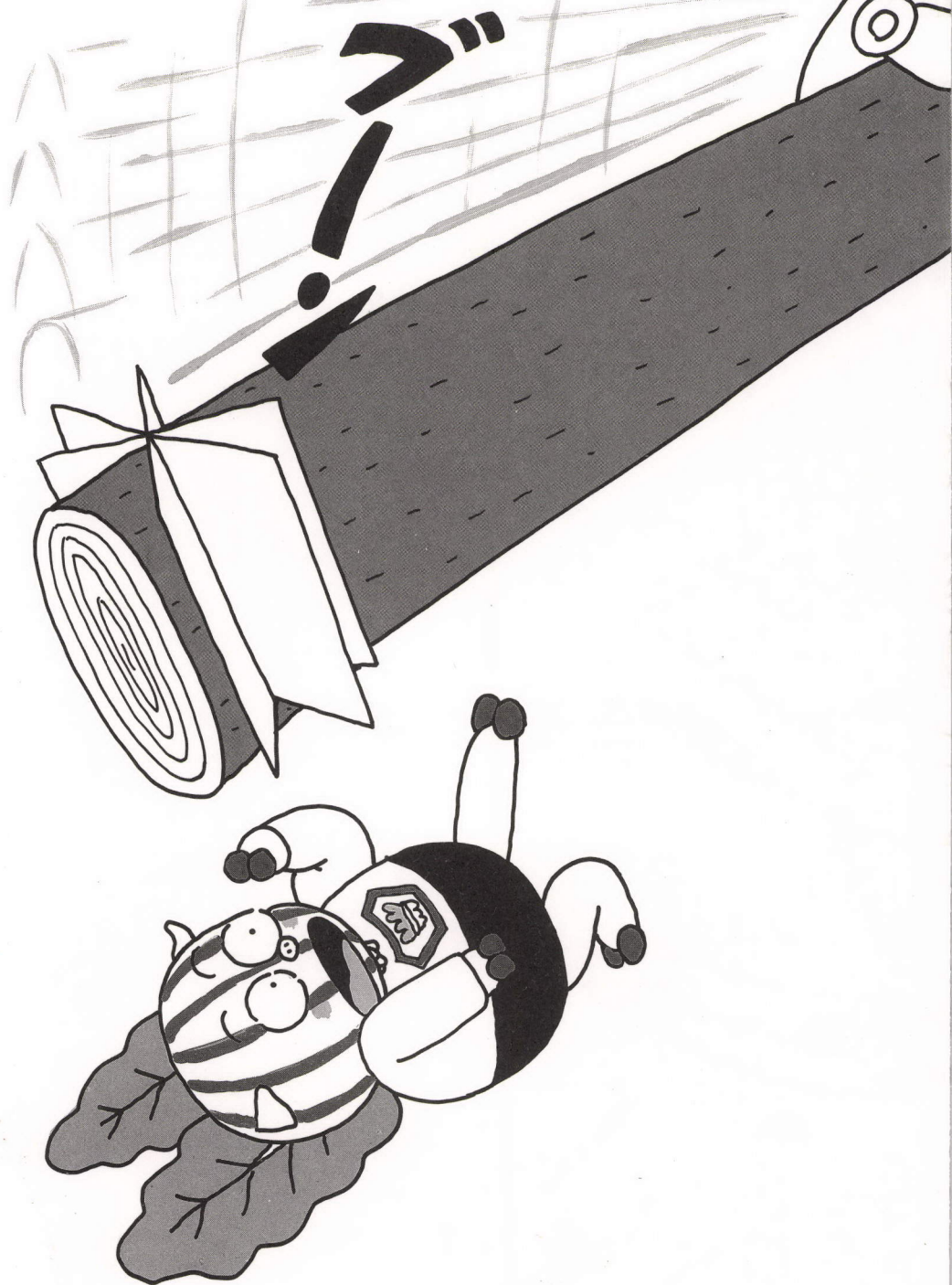
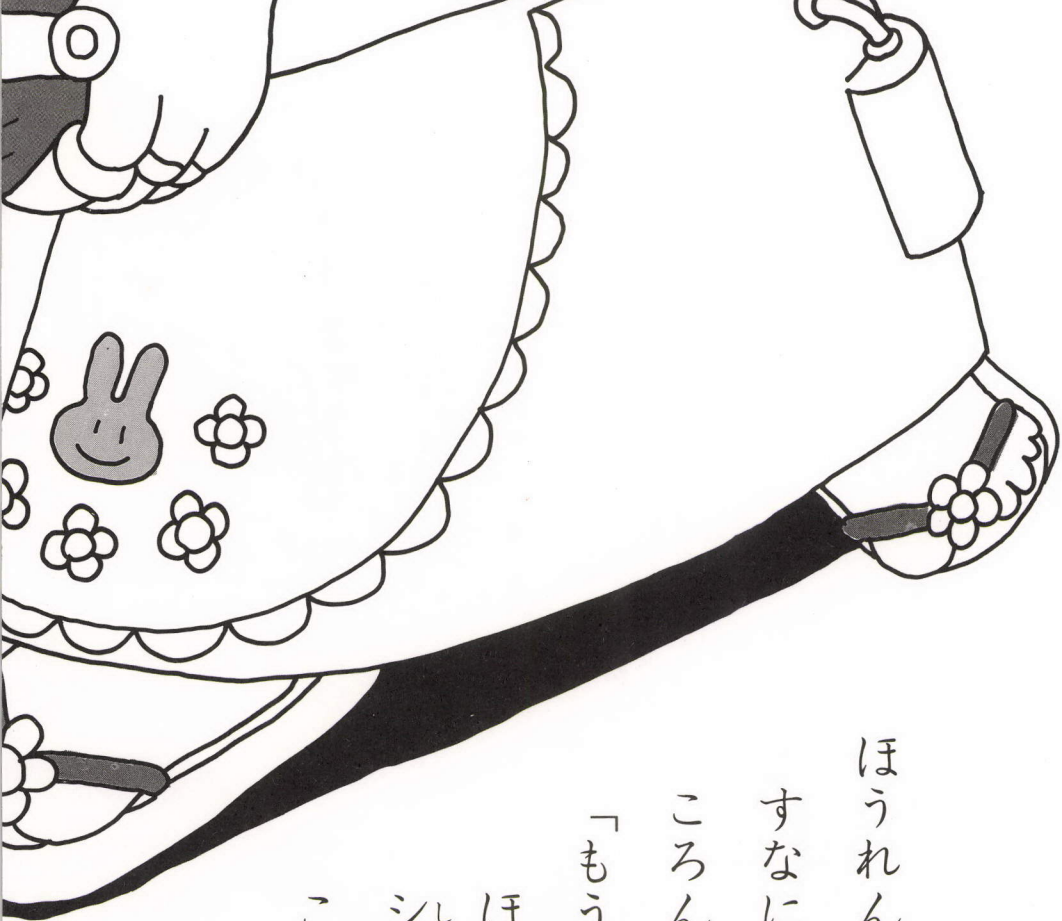
「おぼえていろよ〜、ほうれんそうマ〜ン。」
ゾロリの こえが、しまに こだましています。
左の えは、えの じょうずな すみれちゃんが
かいた、このときの えにっきです。

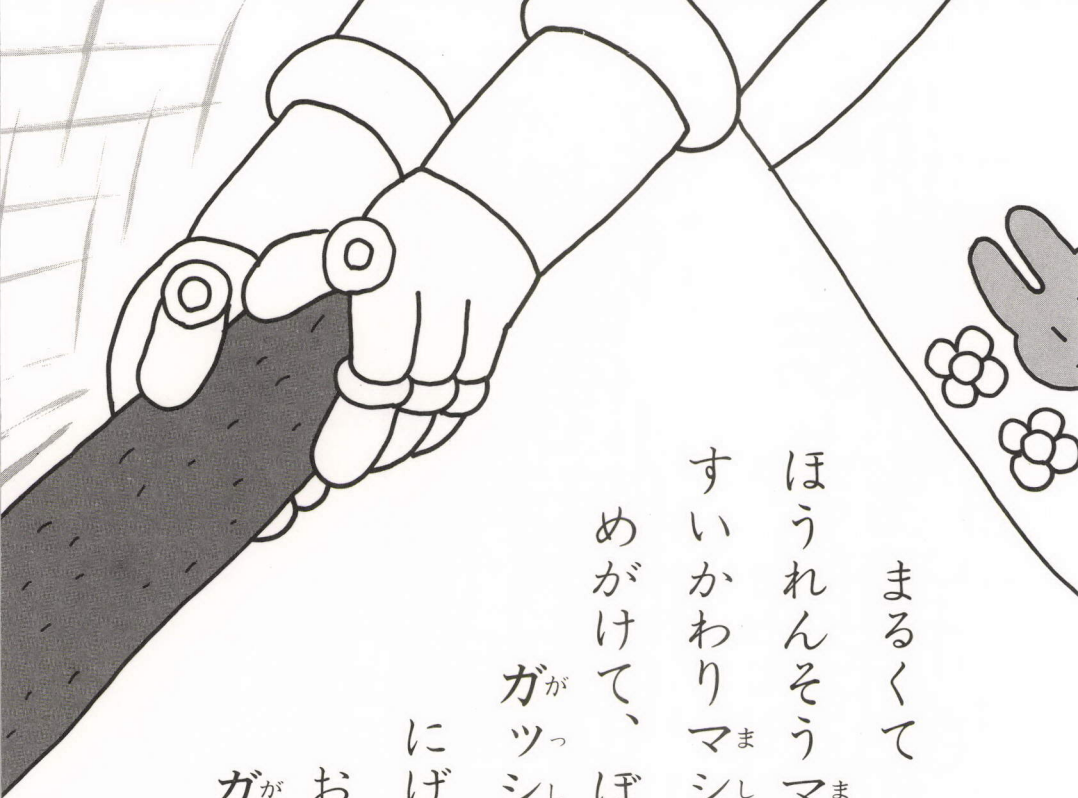
うっひゃぁー。
や、やっぱり……。
よ、よせ　よせ　よせ。
おまえをつくったゾロリさまだぞ――。
ドッスーン
しゃしんも、とりかえしたよ
ハハハ……
ビリビリ

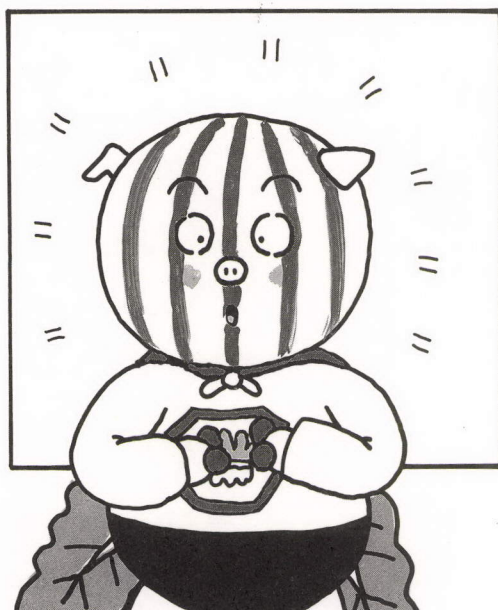
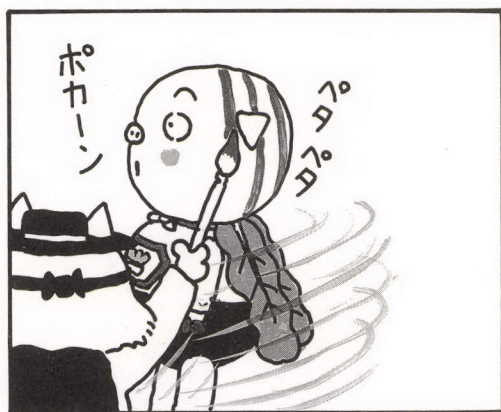
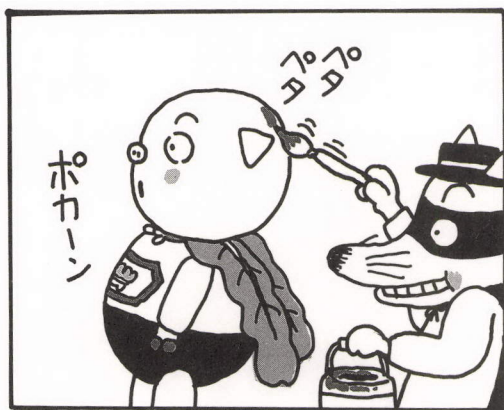
う〜ん
ぬけない
ぬけない。
ガッシャンコ
ガッシャンコ
ガッシャンコ
ん？
いやな よかん
ほうれんそうマン
すてき〜〜

「あっ、なんだ、くらいぞ。
ぬけないぞ。」
ゾロリも、すいかあたまに
なってしまいました。

ほうれんそうマンは、
かおを　よこに　したまま
すいかを　かかえ、
ゾロリの　あたま　めがけて、
おっことしました。

「わかったぞ。
ぼくが　ころんで、
かおが　よこに
なったので、たてじまが
よこじまに　なったんだ。この
マシーンは、よこじまには　はんのうしないぞ！」
ほうれんそうマンは、すいかわりマシーンの
じゃくてんを　みつけたのです。

ガチャッ……

なんと　あたまの　すぐ　上で、マシーンは
ぴたりと　うごかなく　なったのです。
「なぜだ！　どうした！　たたきつぶせっ！」
ゾロリは　かおを　まっかに
して、さけびました。

ゴー!

ほうれんそうマンは、
すなに　足を　とられて
ころんでしまいました。
「もうだめだ。
ほうれんそうマン
シリーズも、
この本で　おしまいだ。
さようなら――」。

「ふう　ふう、
つ、つかれたっ……。」
さすがの　ほうれんそう
マンも、へとへと。
目が　かすんできます。
「がんばって……。」
すみれちゃんの
こえが、とおくに
きこえます。

まるくて　たてじまの
ほうれんそうマンの　おかおを　みた
すいかわりマシーンは、ほうれんそうマン
めがけて、ぼうを　ふりおろしました。
ガッシャンコ　ドッスーン！
にげても　にげても
おいかけてきて、
ガッシャンコ　ドッスーン！

「ニヒニヒニヒ、ほうれんそうマン。
いよいよ　さいごが　ちかづいたようだな。」
「なぜだっ。」
「すいかわりマシーンは、　まるくて　たてじまの
はいっている　ものを　たたきつぶすよう、
せっけいしたのだ。
きみの　おかおは、　もう
すいかの　そっくりさんだ。
にげても　むだだよ。」

ほうれんそうマンが、マシーンの　いりょくの
すごさに、口を　ぽかーんと　あけて　みている
すきに、ゾロリは　ペンキと　ふでで……

みよ!!
これが すいかわりマシーンの すべてだ!!

ほうれんそうマン(まん)も、
もうすぐ
この　すいかのように
なっちゃうのだ。
かわいそ〜。
いんちき
めかくし
ふりおろす
うでの そくどは
137キロ
ガソリン・タンク
すなはまでも
はやく　はしれる
ビーチ・サンダル
ポカーン
ペタン
もったいないから
1コ　タオルで
かくして
もらって おこう

「なんの　まねだ、ゾロリ！」

「ほうれんそうマン
じゃ　なかった、
おねしょマン。
いま、すいかわりマシーンの
いりょくを　みせてやろうと、
じゅんびしてるのだ。
これで　よし。おめめ　ぱっちり
あけて、よーく　みるんだぞ。」

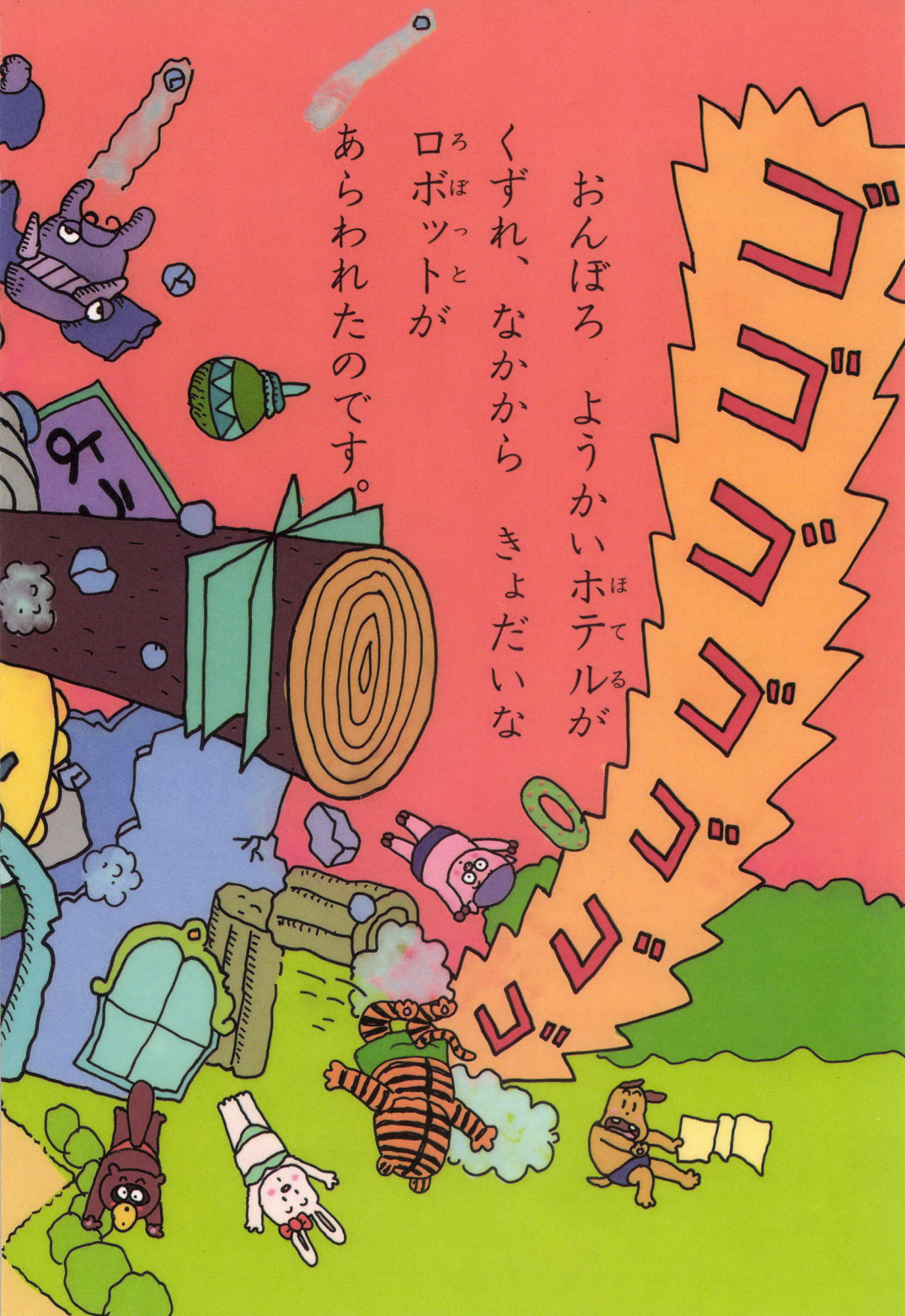
ジャジャジャジャジャ――ン！
ピンクの　おかお、みどりの　マントの
ほうれんそうマンに、
へんしんです。

あれれ、
ゾロリが
すなはまに
ゴロゴロゴロッと、すいかを
十こ、きれいに　ならべていますよ。

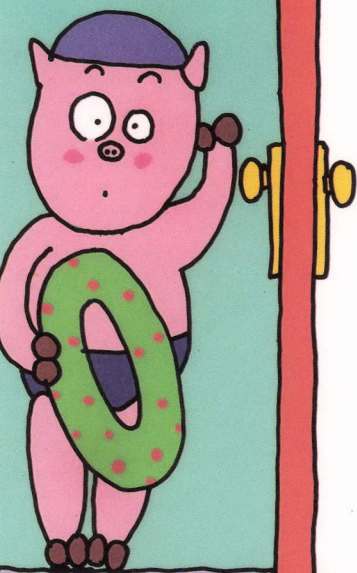
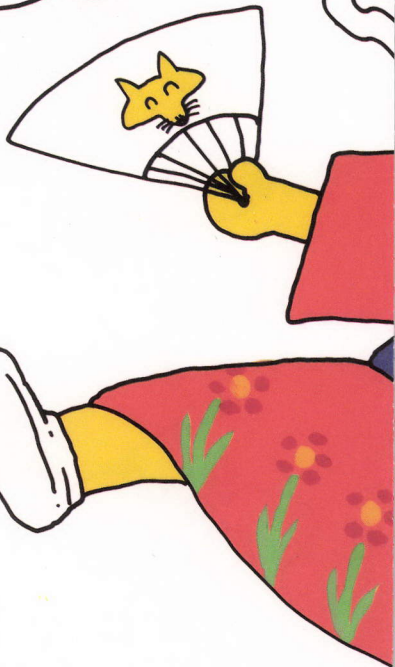
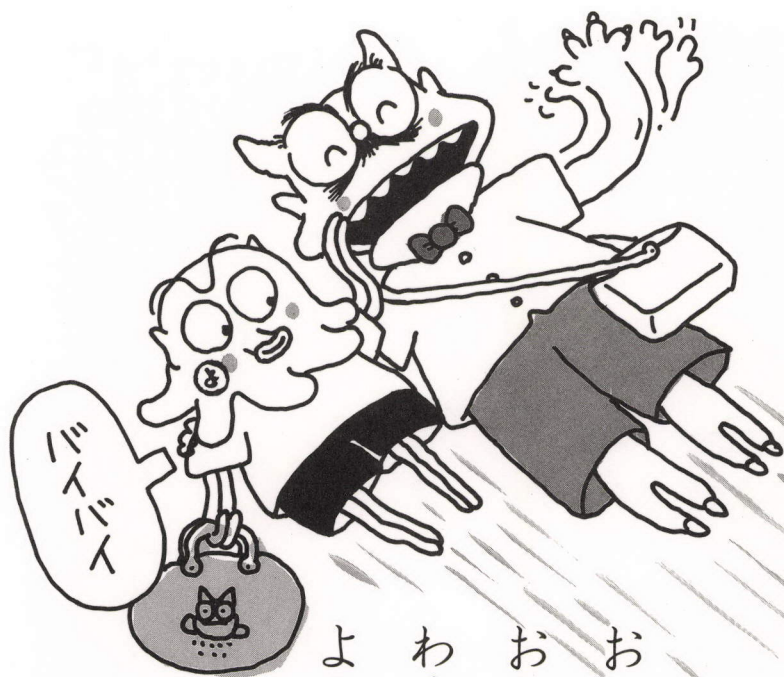
つよく　おもって、
ポイポイが　ほうれんそうを
たべますと……

「おねしょマン、この　はずかしい
しゃしんを　とりかえしたかったら、
おれさまの　すいかわりマシーンと
しょうぶしたまえ。」
「ひきょうだぞ、かいけつゾロリ。
ぼくの　おねしょの　しゃしん
ばかりか、すみれちゃんの
しゃしんも　とるとは、
ゆ、ゆるせなーい。」

「これが　おれさまの
すいかわりマシーンだ。」
ゾロリは　とくいがおで
いいました。

ゴゴゴゴゴゴゴ
おんぼろ　ようかいホテルが
くずれ、なかから　きょだいな
ロボットが
あらわれたのです。

「おやまあ　おねしょマン。
ばれてしまったのなら
しかたが　ない。こんな
ことも　あろうかと、きみの
ために　おれさまが　この夏、
力を　こめて　こしらえた
ひみつへいきを、おみせしようかね。」
ゾロリが　かべに　かかった、
ママの　しゃしんの　はなを　おすと……

「きこえたぞ、　かいけつゾロリ！
どうも　おかしいと　おもっていたが、
やっぱり　おまえだったのか。」
ドアを、バーンと　あけて、ポイポイが
はいってきました。

ポイポイが
おねしょした　ホイ
たっぷり　ぐっしょり
おねしょした　コリヤ
おねしょマンだよ
コリヤ　コリヤ
コリヤサ
ン!!
ゾロリ

「ポイポイが、 『うえーん、 おもらし
しちゃったあ～』 なんてとこ、
しゃしんに とれて、 ゆかい ゆかい。
この ゾロリさまが、 ちょーっと
ほんきだせば、 このとおりだ。
ビールでも のんで、
おいわい
しよう。」

タコようかいも　ぶじ
ごうかくしました。
「これも、ゾロリどのの
おかげです。まったく　みごとな、
おてなみ。この　ごおんは
わすれません。では　しっけい。」
ようかい先生と　タコようかいは、
うれしそうに　ようかい
王国に　かえっていきました。

あさから　ばんまで
ビデオゲーム。
そとでも　あそばず
ほうれんそうマン　シリーズも
よまない、
こういうのを　あたまのなかが
タコおどりって　いうのさ。
だから　なづけて、
タコさくせん
だいせいこう!!

しているのです。
「シマオくん、ポンチくん、
いつまで　ゲーム
やってるの。　あさごはん
たべたら、うみで　およぎましょ。」
ピコピコ　ピッコピコ
ふたりには、　きこえません。
ビデオゲームの　やりすぎで、
あたまのなかが、　パッパラパー。

つぎの　あさです。

きょうは、シマオと　ポンチが　しょくどうに

あらわれません。

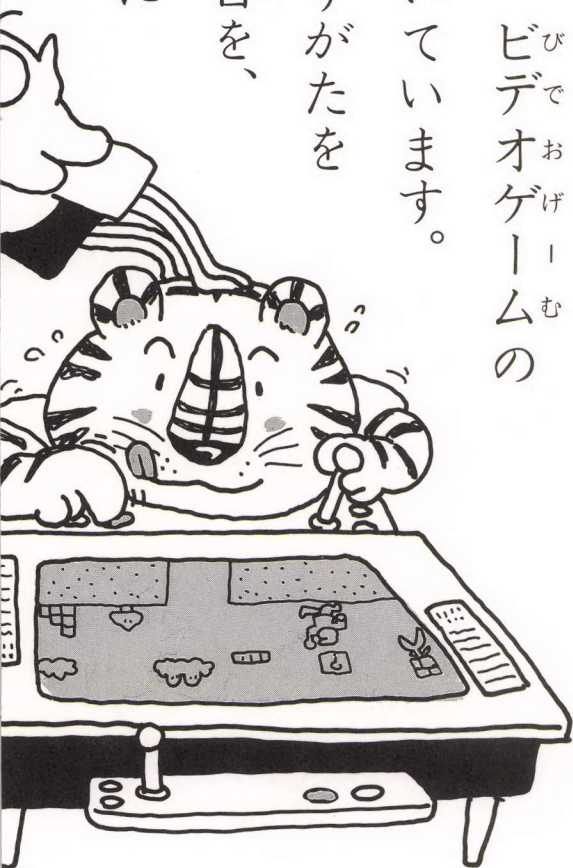
さゆり先生が、ホテルを　さがしてみると、

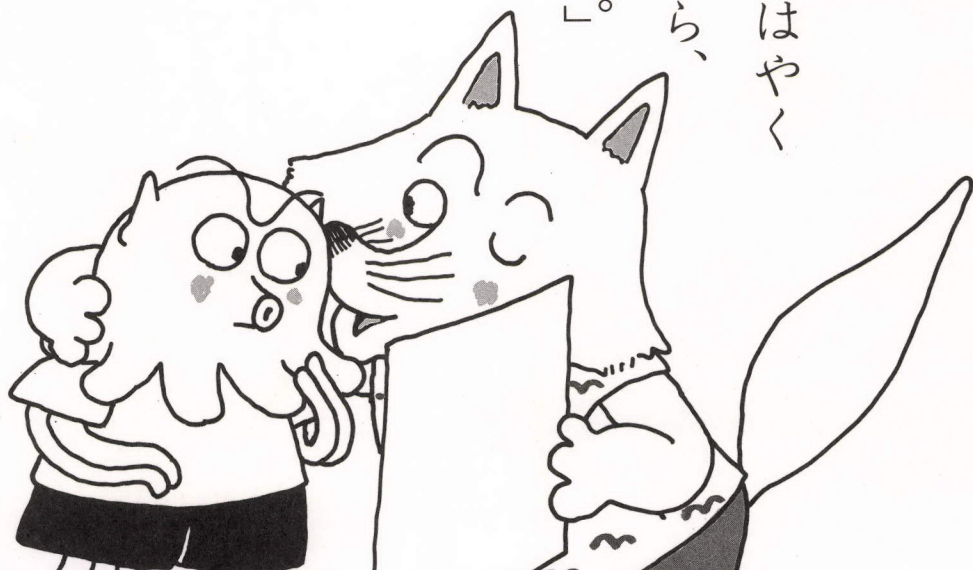
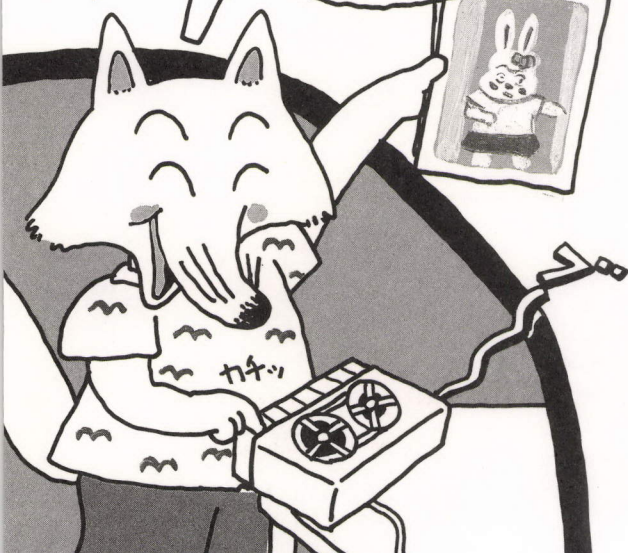
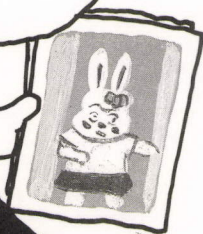
ふたりは、ロビーの　ビデオゲームの

きかいに　かじりついています。

タコようかいが　すがたを

けして、ふたりの　目を、

ゲームに　くぎづけに

タコようかいの　いじめ

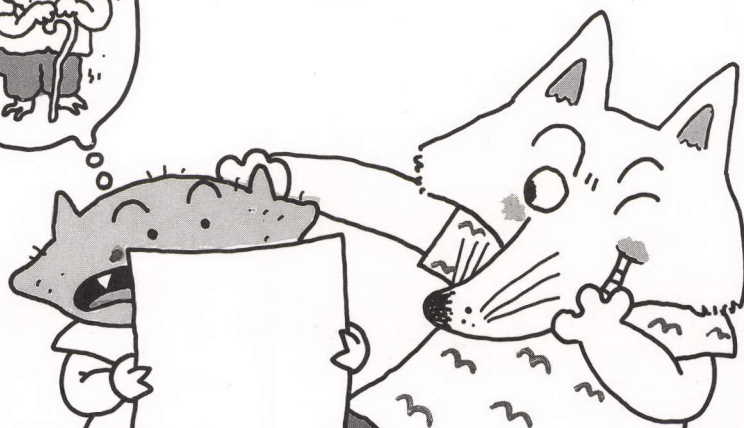
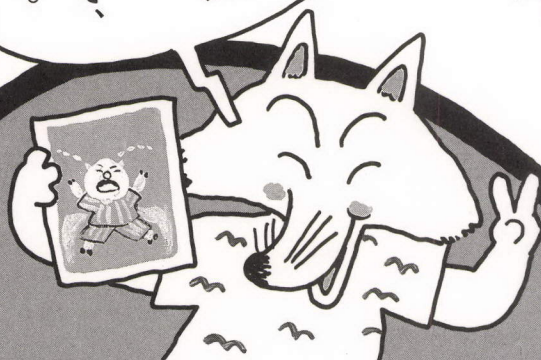
「ゾロリさん、ぼくも　おうちに　はやく
かえれるように　がんばりますから、
よろしく　おねがいしまーチュー。」
タコようかいが　いいました。
「フムフム。なかなか　すなおで
よろしい。きみへの　さくせんは
これだ!!
さっそく　レッツ　ゴー。」

「ごうかくっ！」
ようかい先生は、いもようかいの
おでこにも　ペタンと、
はんこを　おしました。

そのときです、イヌジくんの
おならが、とまらなく
なったのです。
「おしょくじちゅうに、
なんて　げひんなの。」
さゆり先生は、
かんかんです。

みんな、その　女の子が
すみれちゃんだと
わかるまでに、十分も
かかりました。
さゆり先生が、
「すっかり　おそく
なっちゃったわ。さあ、あさ
ごはん　いただきましょ。」
「いっただきまーす。」

「みなさん、ねぼうして
ごめんなさい。」
しょくどうのドアを
あけた女の子に
むかって、みんなは
おもわずいいました。
「うわ――っ
い、いもねえちゃん!!」

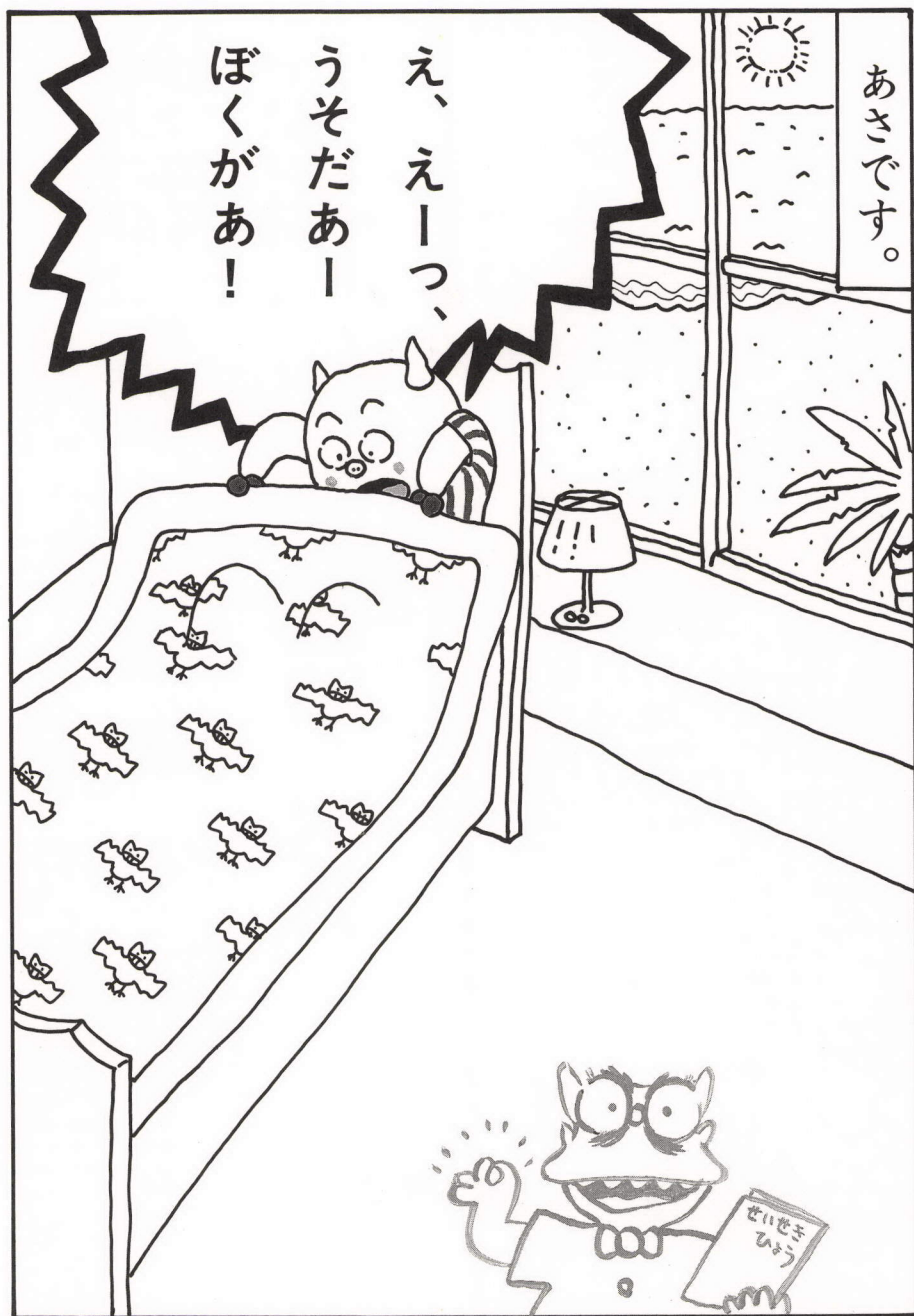
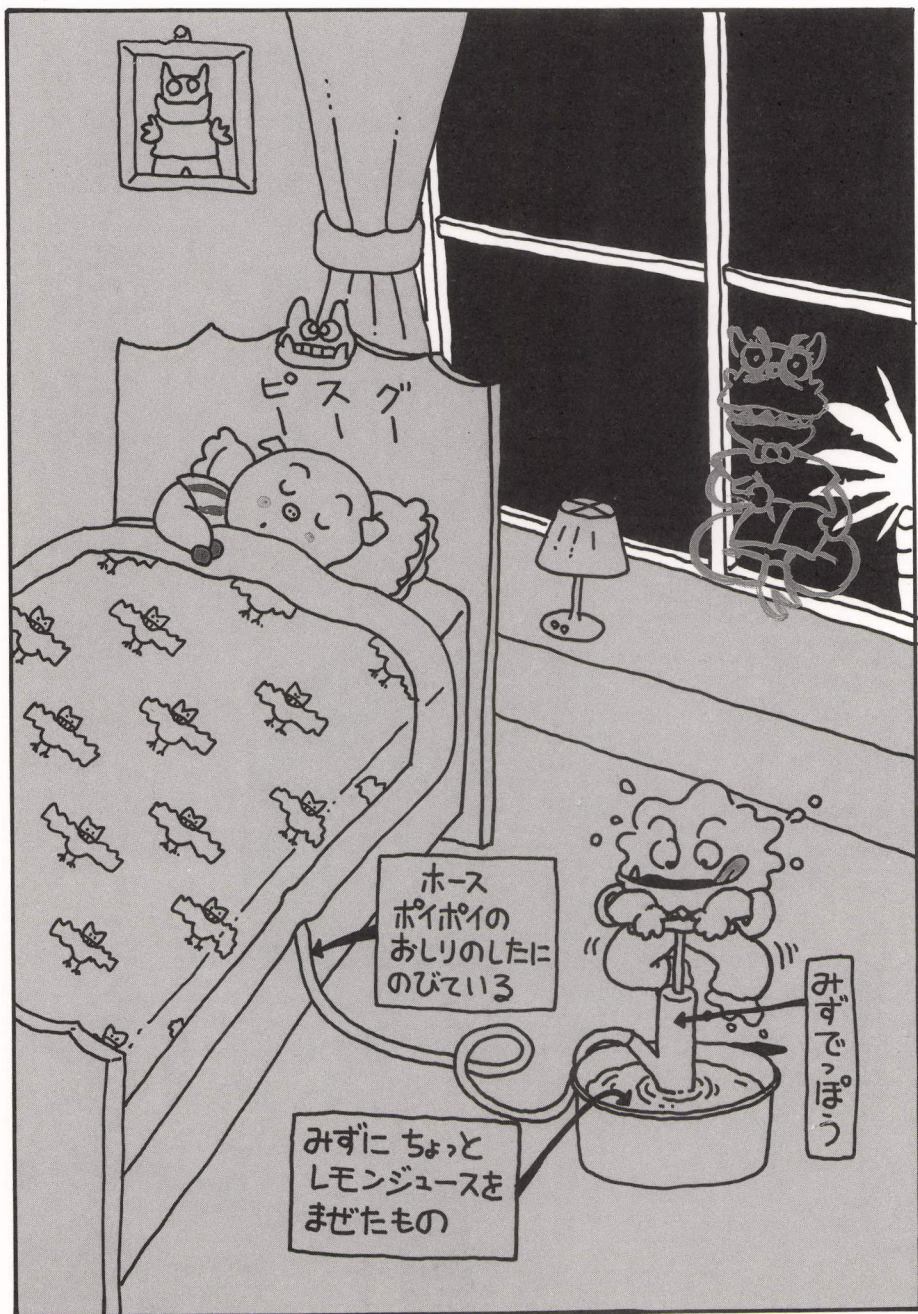
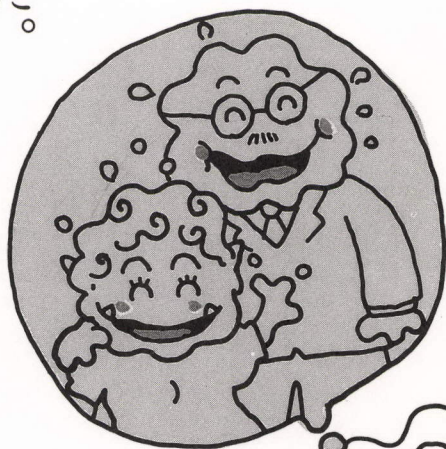
つぎの　あさ、　すみれちゃんは、　ねぼうして
しまいました。
「まあ　たいへん、しょくどうに　いそがなくっちゃ。
みんなが　まってるわ。」
その　すみれちゃんに、
けしょうどうぐを　かかえた
いもようかいが、　すがたを
けして、　ペタペタ　ぬりぬり。
すみれちゃん　どうなるの……。

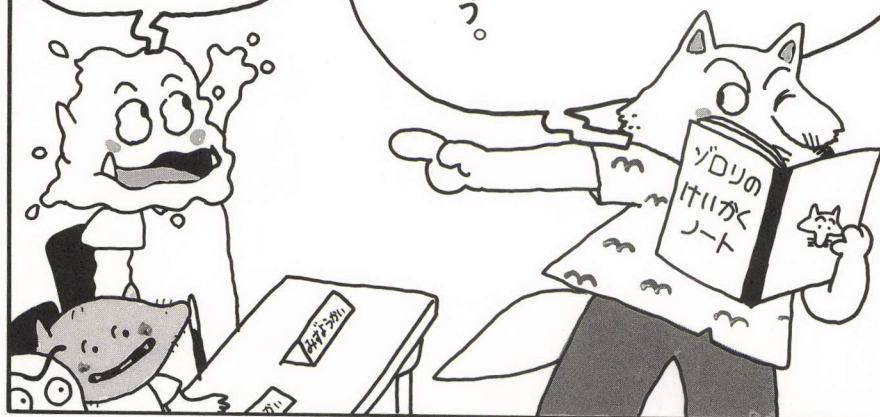
いもようかいの　いじめ

「ヒエーッ、そ、そんな。イヌジは
ともかく、すみれちゃんまでも……。」
いもようかいは、ゾロリの　さくせんに
はんたいしました。
「ほう、きみは、おじいさんに　なるまで、
この　ホテルで　とっくんを
うけたいと　いうのだね。」
「ヒエッ、やります、やります、がんばりま～す。」

「ごうかくっ！」
ようかい先生は、みずようかいの
おかおに　ペタンと、はんこを　おしました。
「さよなら――。いもくん、タコくん、
がんばってね――」。
みずようかいは、パパと
ママの　まつ
ようかい王国へ、
かえって　いきました。

みんな、こんな でっかい
おねしょを みたのは はじめてで、
ぽかーんと していました。
しかし、ホテルの おかみさん
だけは、カメラなんか もちだして、
ポイポイの しゃしんを とっています。

ポイポイの　大きな　こえに　おどろいて、
みんなは　ポイポイの　へやに　あつまりました。

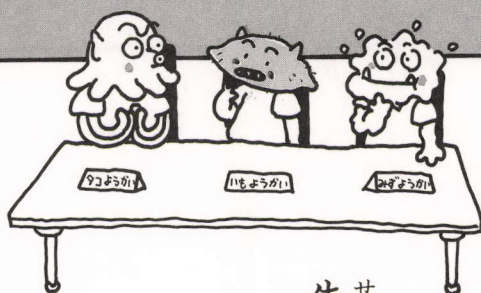
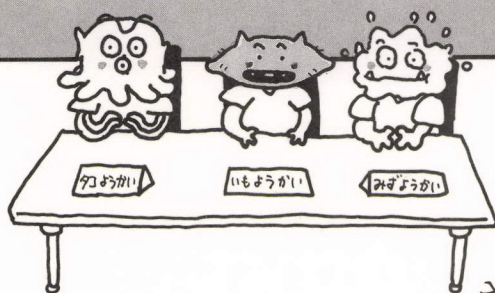
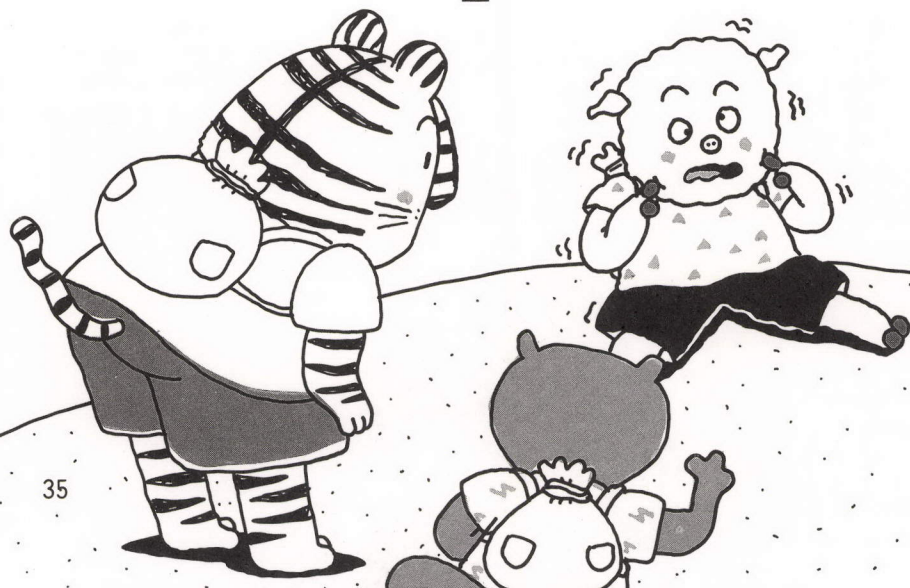
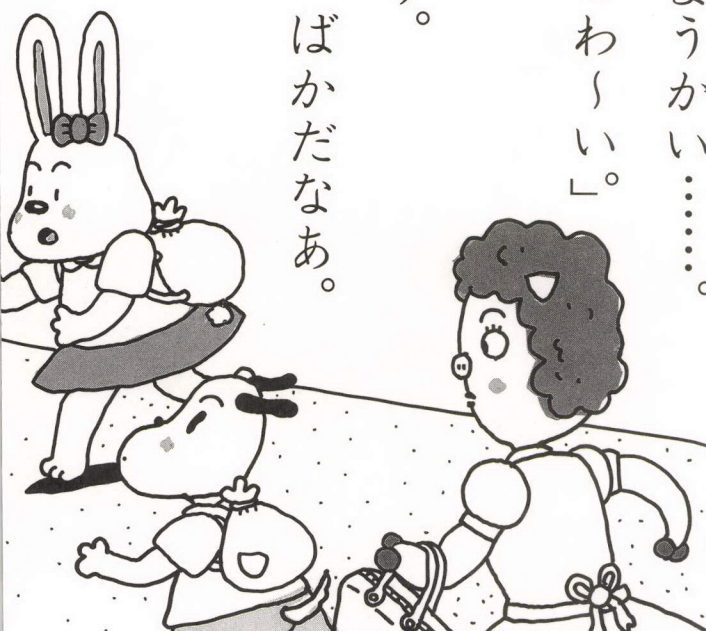
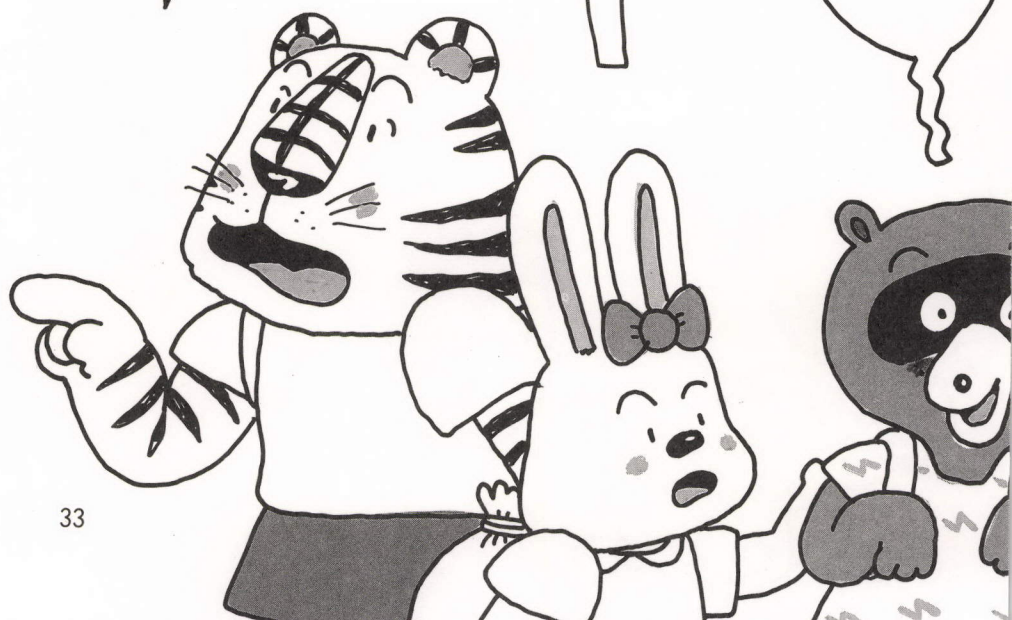
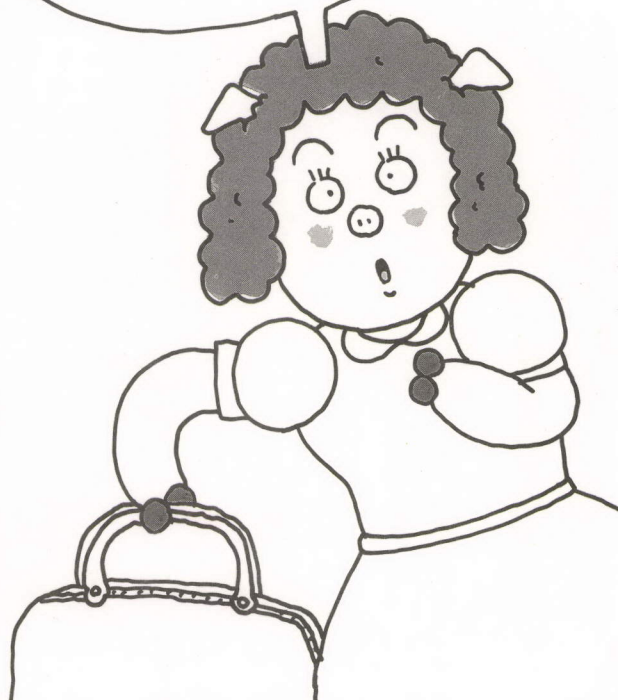
あさです。
え、えーっ、うそだあーぼくがあ！
せいせきひょう

グーースーピー
ホース
ポイポイの
おしりのしたに
のびている
みずでっぽう
みずに ちょっと
レモンジュースを
まぜたもの

みずようかいの　ハートに、
ゾロリの　ことばは、するどく
つきささりました。
「パパ……。ママ……。
ぼく、がんばる。」
みずようかいは、
大けっしんを　しました。
そして、ゾロリに　いわれたとおり、まよなかに
ポイポイの　へやに　はいっていったのです……。

みずようかいの　いじめ

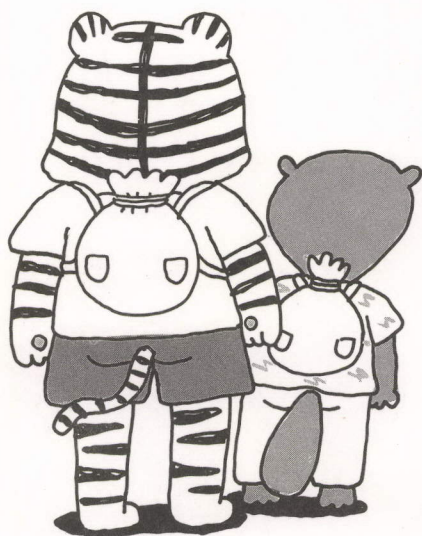
「やだーっ、そんなの　あんまり　かわいそすぎるよ。」
みずようかいは、ゾロリの
さくせんを　きくと、おもわず
なみだを　うかべました。
「フフン、じゃあ　パパや
ママの　まつ、ようかい王国に
かえりたくない　のだね。」
グサッ！

ゾロリの　目が、
キラリンと、　あやしく
ひかりました。

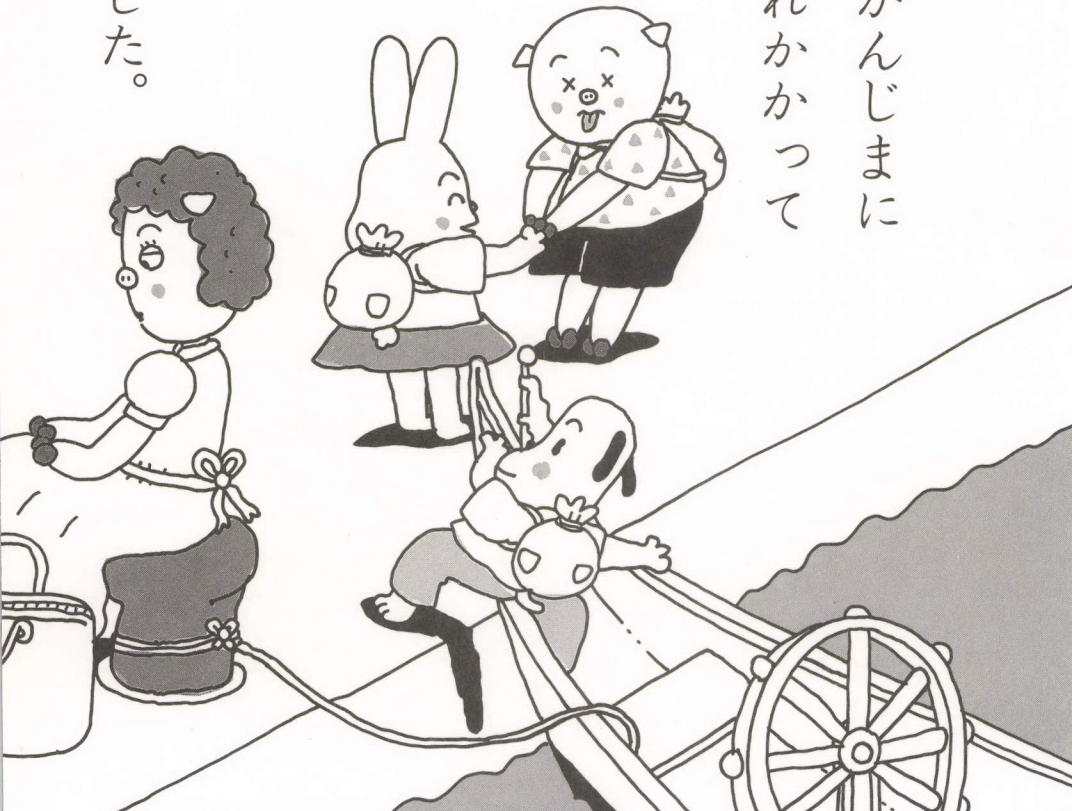
まず、　みずようかいの
さくせんからです。

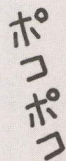
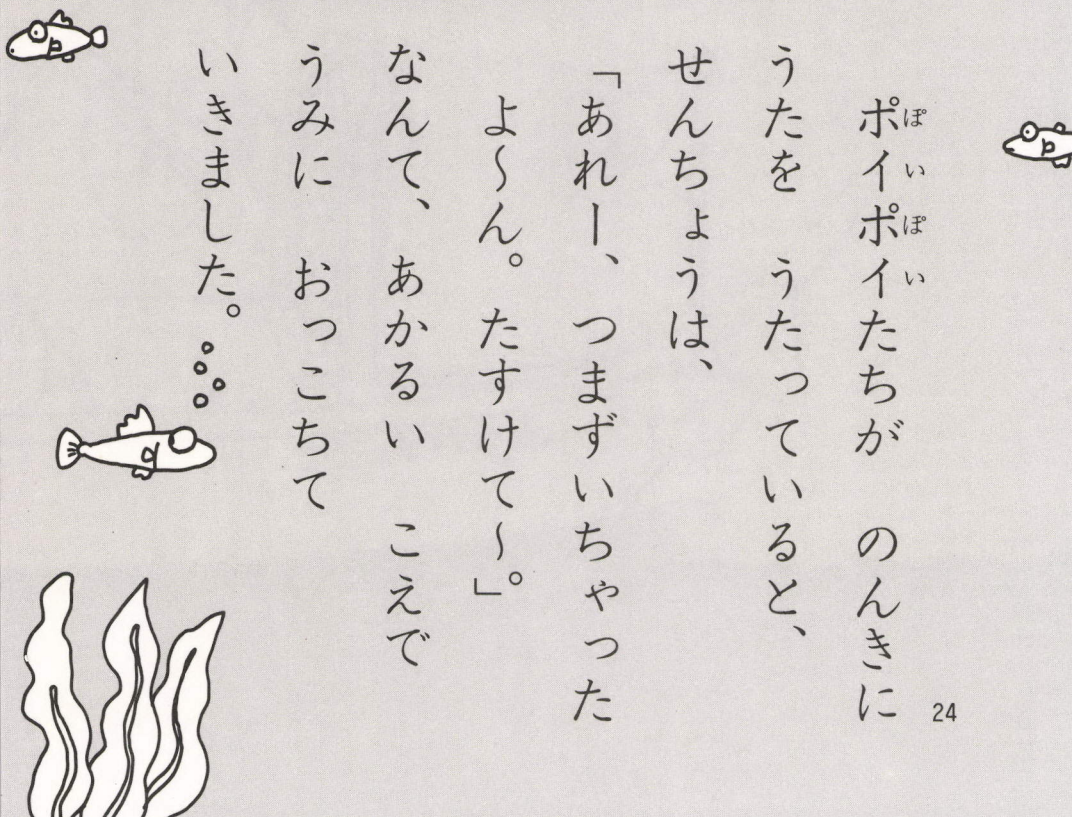
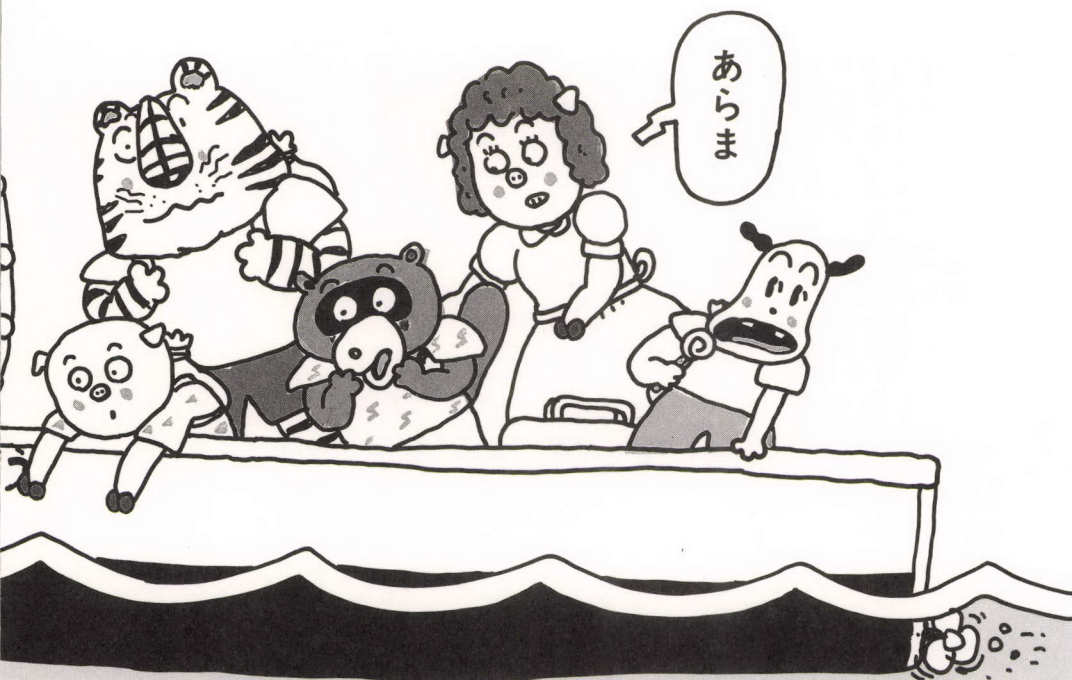
みずくん、きみは水をつかったいじめをやってもらう。
はーい、ぼく 水をつかったいじめをしまーす。
ゾロリのけいかくノート
みずようかい
いもくん、きみにはいもをつかったいじめをやってもらう。
はーい ぼく、いもをつかったいじめをしまーす。
ゾロリのけいかくノート
みずようかい

「じゃ、ゾロリどの　よろしく。」
ようかい先生は、ヒュードロンと、きえました。
「オッホン　エッヘン。」ゾロリは
先生のように　せきばらいを　して、
「ようかいの　おちこぼれしょくん。
わしは、きみたちの　せいかくに
あった　いじめかたを、けんきゅう
した。おれさまの　いうとおりに　がんばれば、いじめ
かたの　しけんに、ごうかく　まちがいなしだ。」

さて、ようかいホテルの　地下に　ある
さくせんかいぎしつでは……。
ようかい学校の　先生が、大よろこび。
「あの　ポイポイって　やつは、じつに
おどかしがいが　ある。わたしが
サワリン　サワッて　なぜただけで
あの　こわがりよう。みず、いも、
タコっ。わたしは　すがたを　けして、きみたちの
いじめぶりを、さいてんしているからな。」

よ、ようかいが　ぼくの
ほっぺを　サワリン　サワッて、
なぜたんだ――」。
「ポイポイ、あなた　ふねの
そうじゅうで、つかれてるのよ。」
「そうだよ、気のせいさ。」
「ホテルで　やすめば、すぐ
元気に　なるよ。」
「そ、そうかなあ――」。

ポイポイ（ぽいぽい）は、すなはまで、こしを　ぬかして
いました。
「よ、よ、ようかい、よ、よ、ようかい……。
よ、よ、ようかい、こ、こ、こわ～い。」
ぶるぶる　ふるえて、わけの
わからないことを　いっています。
「ようかんが　こわいだってさ。ばかだなあ。
あまくって　おいしいんだぜ。」
「ようかんじゃ　ないよ。

ヒュ―― ドロドロ〜 なんてね。
ポンチ だめよ。 ヒュー ドロドロ なんて いっちゃ。 ポイポイは ものすごーく おばけや ようかいに よわいんだから。
あれっ ポイポイが たいへんだ。

きみが　わるいわ。
それにしても
みなとに　のこしてきた
子どもたち、せんちょうさんが
うみに　おっこちたから、
むかえに　いけなくなっちゃって。
ようかんに　つられて、こんな
ところを　えらんだ　わたしが
いけないのね。
おばけが
でそうだね。

ようかいホテル
うっそ〜
つかれちゃったよ、
ちょっと　すなはまで
やすもう。

あれに　みえますのが
ようかんホテルです。
すてきでしょ。
まあ
ゲッ
ドッヒャー
うひゃあ〜

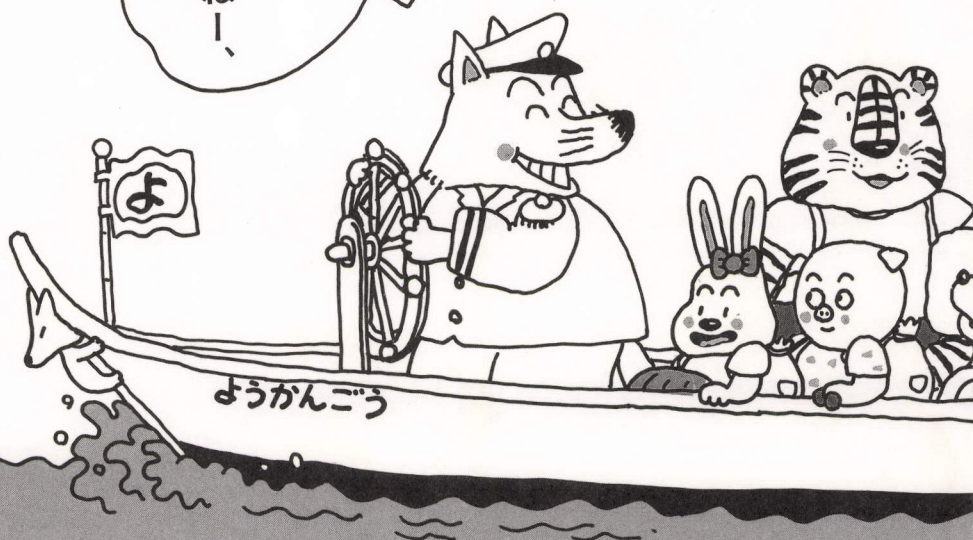
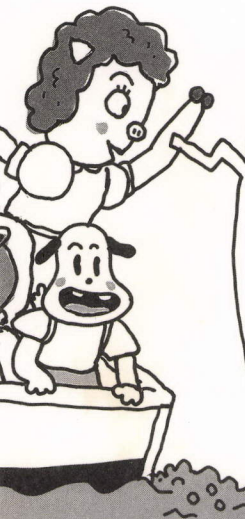
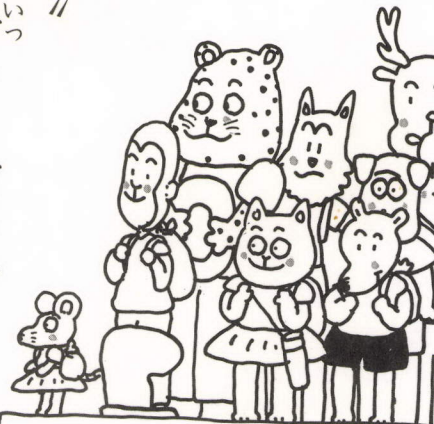
そこに、
「よいこの　みなさま、おはやい　おつきで。」
ひとあしさきに　ようかいじまに　たどりつき、
ホテルの　おかみさんに　へんしんした　ゾロリが、
やってきました。

やっとのことで　ようかんじまに
つくと、もう　日が　くれかかって
いました。
「こわかったわ
ポイポイ、
ありがとう。」
すみれちゃんは、
ポイポイの　手を、
ぎゅっと　にぎりしめました。

ようかい
みなと

ぼくが　ふねの　かじを　とるよ、まかせてね。
わたし、ポイポイ　しんじるわ。
ポイポイに　なって、ふねを　ようかんみなとまで　つれていってくださいね。

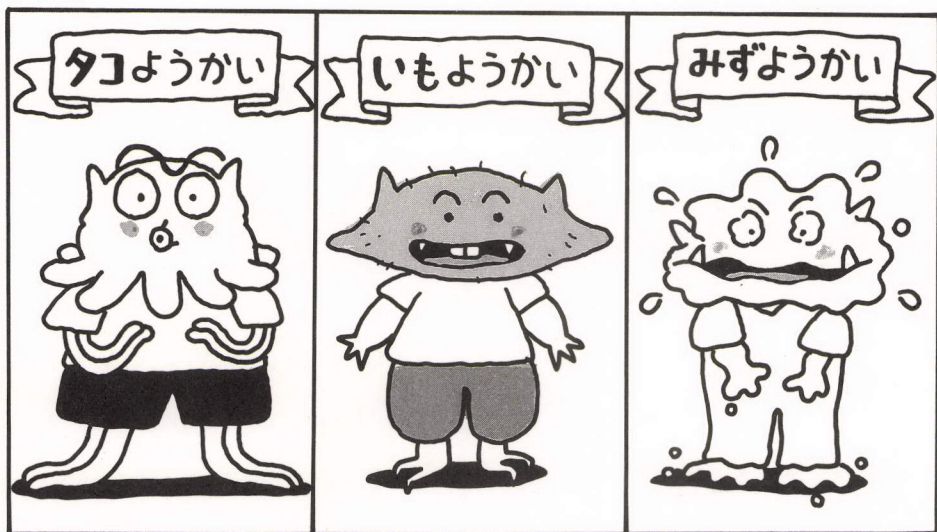
キャ――――
たいへん！
だ、だれか、
ふねの　かじを
とらなくっちゃ。
よ
ようか
ドボーン
☆ふとって いると おもったら ゾロリは、せなかに、さんそボンベを しょって いたのだ!!
☆しっぽに つけた きょうりょくスクリュー。すいちゅうでの じそく 172キロ
ポコポコ
ようかいじまの まわりは、すごい なみなのだ。ぶじに ようかい、いや ようかんじまに つけるかな。ニヒ ニヒ。

ポイポイたちが のんきに
うたを うたっていると、
せんちょうは、
「あれー、つまずいちゃった
よ～ん。たすけて～。」
なんて、あかるい こえで
うみに おっこちて
いきました。

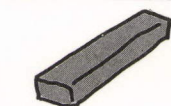
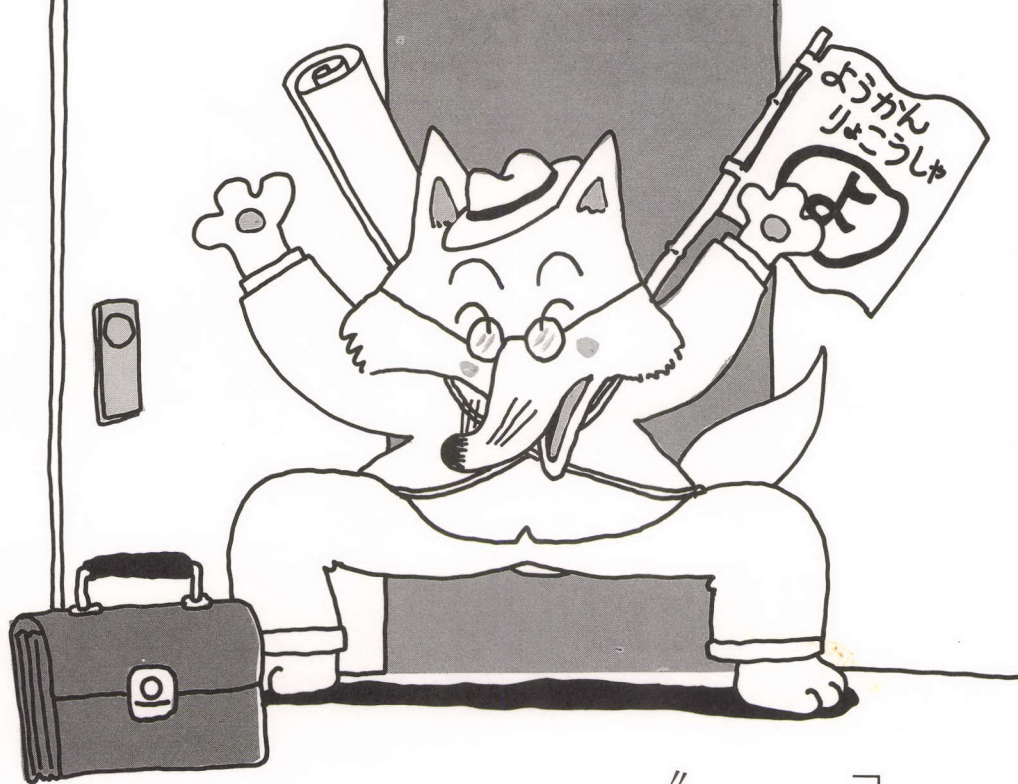
ニヒ ニヒ ニッヒ、
ちびっこ しょくんめ、
この ゾロリさまが
こわーい おもいで
たっぷり
つくってやるぜ。
よ
ようかんごう

♬
ぼくらは　よいこ
元気な子
ようかんじまへ
でかけるところ
いったい　どんな
とこかしら
あそんで　たべて
ねむって　およぎ
たのしい　おもいで
つくりましょ
♪♪

七にんしか　のれませんので、
なんども　いったり
きたりして、みなさんを
おはこびします。
まずは、そこの
なかよし五にんと
さゆり先生、
おのりください。」

まちに　まった
りんかい学校の　日です。
みなとには、〃ようかんごう〃
と　かいた、小さな　ふねが　一そうだけ。
「まあ、こんな　小さな　ふねじゃ、
みんなが　のれないじゃ　ないの。」
さゆり先生は、せんちょうに
いいました。
「はいはい、この　ふねは、

しらない　さゆり先生、

さあ　ゾロリの　おもうつぼ、
どうなることやら……。

それじゃ、 みずようかん、
いもようかん、 タコようかん
と いうのは、なんでしょう？
　これも、 みずようかい、
いもようかい、 タコようかい
と いう、 ようかい学校
おちこぼれ　三にんぐみの
なまえだったのです。
　でも、 そんなことは

でも　ちょっと　まってください。かしこい
どくしゃの　みなさんは、もう　この　しゃいんが、
ゾロリだと　おきづきでしょう。そして　この
ポスター、じつは、こんな　さいくが　してあったのです。

りょこうしゃの　しゃいんは、ようかんじまの
ポスター（ぽすたー）を　ひろげました。

おいしそう。わたし、
そこに　きめようかしら。」
さゆり先生は、おもわず　にこっと　しました。
ここだけの　ひみつの　はなしですが、さゆり先生は、
おいもと　ようかんが、大、大すき。
「なんて　おいしそう。いや、ゆめの　ある　しまかしら。」
「そりゃ、もう　さいこう。おまけに　みずようかん、
いもようかん、タコようかんの　ごよういを　して、
あなたたちを　おまちしておりますですよ、はい。」

「ジャ　ジャ　ジャーン！
まよったときには、この
〟ようかんりょこうしゃ〟に
おまかせーっ!!
ことしの　夏は、しまが
さいこう。〟ようかんじま〟
など、いかがでしょう。」
「ようかんじまですって。
まあ、あまくて

いけば　いいか、まだ
きまらないわ。
もう　夏（なつ）やすみだと　いうのに
まよってしまうわ。」

そのときです。
バタン（ばたん）と、
いきおいよく
ドア（どあ）が　あきました。

さてさて、こちらは　どうぶつ小学校。
バラの　花のように　うつくしい
ぶたの　さゆり先生が、
やさしい　まゆを
ひそめて、
なやんで
います。
「ことしの
りんかい学校、　どこへ

ガガガガガ

ガッシャンコ
ガッシャンコ

ドドドドド

ようかいホテル
こうじちゅう

かんけいしゃ いがい
たちいり きんし

ごめいわくを
おかけします.

わたしは
この けいかくに、
いのちを かけている。
どくしゃの しょくん、
きみたちのなかに
ポイポイの スパイが
いるかもしれないので、
まだ このなかの ひみつは
みせられないのだ。
わるいな。

ゾロリは　どんと、むねを　たたきました。
「ほうれんそうマンたちを、この　ようかいじまに
つれてきて、おちこぼれ　三にんぐみに、たっぷり
いじめさせましょう。ウッヒッヒ」。
「でも、ようかいじまと　いうと、みんな
こわがって、きてくれるものですか。」
「だいじょうぶ。この　ゾロリさまに
まっかせなさーい！」

ぜひ、うちの　せいとめに
いじめかたを　おしえて
もらえないでしょうか。
できの　わるい　せいと
三にんに、わたし
こまりはてて　いるのです。
いじめかたの　しけんに
ごうかくしないと、わたしも
せいとも、ようかい王国に　かえれないのですよ。」

「ほほう、そんなに　うまい　うた
でしたかね？」
「うまいなんてもんじゃ　ない、
さいこうですよ。ゾロリさんの
うたは　いじめのなかに
ロマンが　あるからなあ。」
「いやあ、それほどでも　あるぞ。」
ゾロリは、もう　大よろこび。
「そこで　ゾロリどのに　そうだんなのですが、

なんという すばらしい うたでしょう。

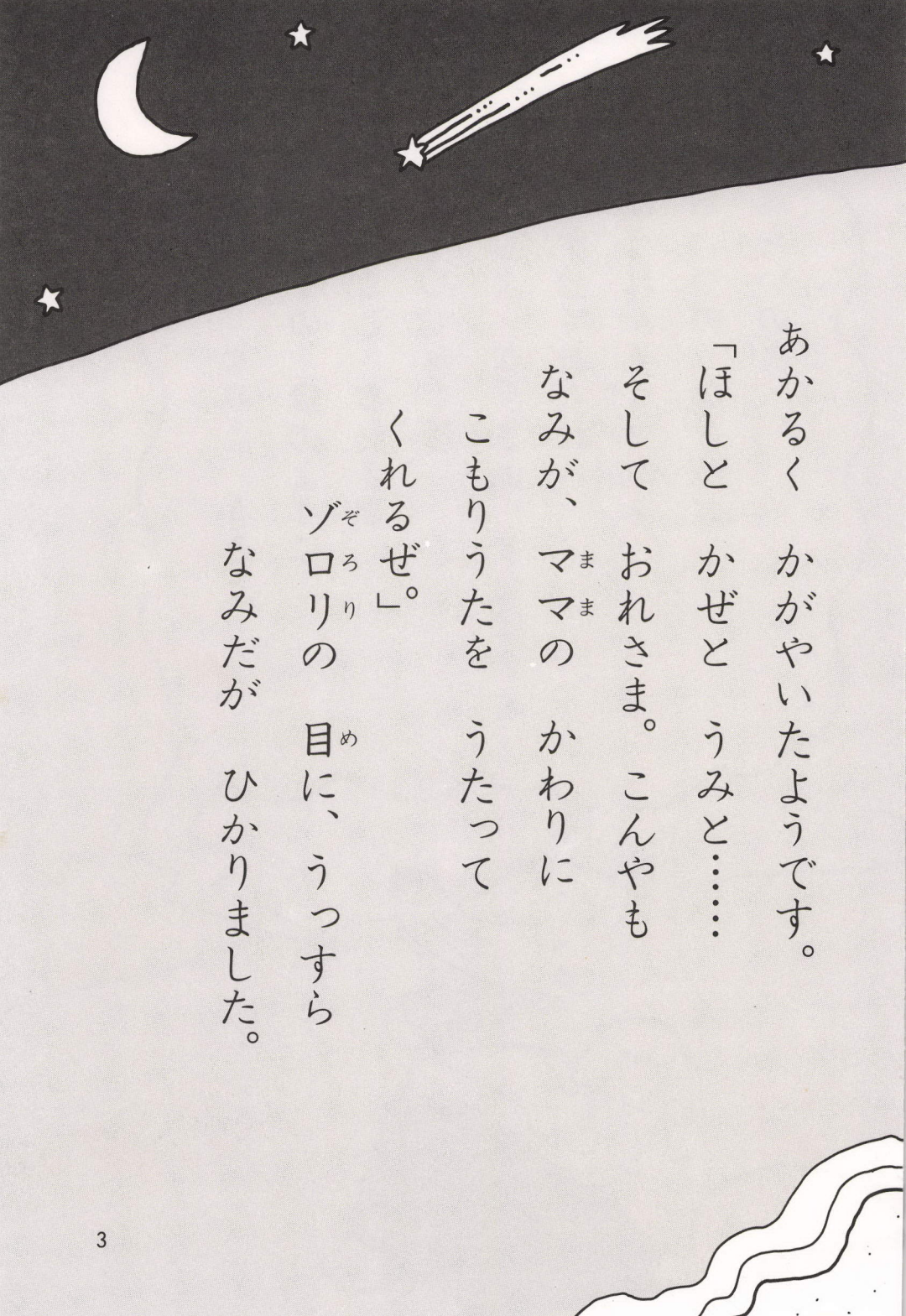
さすが ほうれんそうマンいじめで ゆうめいな、ゾロリどの。

なにを やらせても ちょう一りゅう、ききほれて しまいましたよ。

ゾロリが　とまっている　ようかいじまの
ようかいホテルでは、ようかい学校の　おちこぼれの
せいとたちが、
とっくんを
うけています。

そして、
ゾロリに　こえを　かけた　この
じんぶつこそ、しる　ひとぞ　しる、しらない　ひとは
だれも　しらない、ようかい学校の　先生でした。

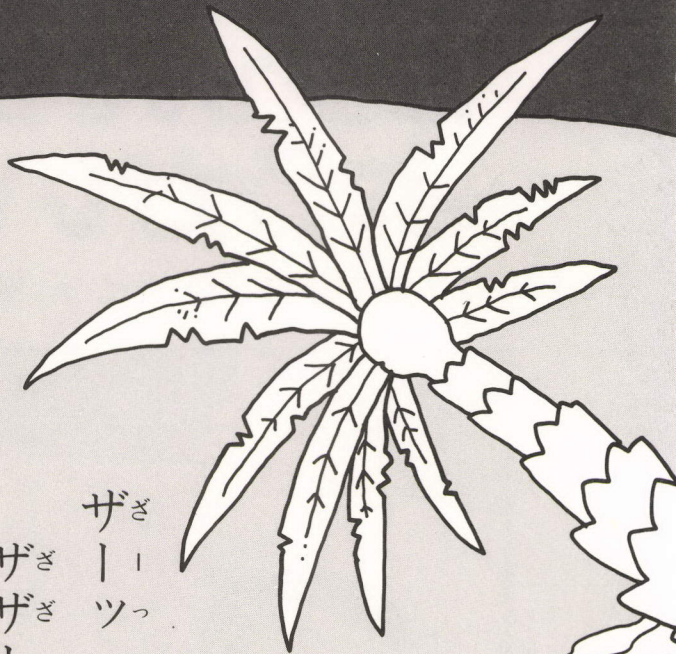
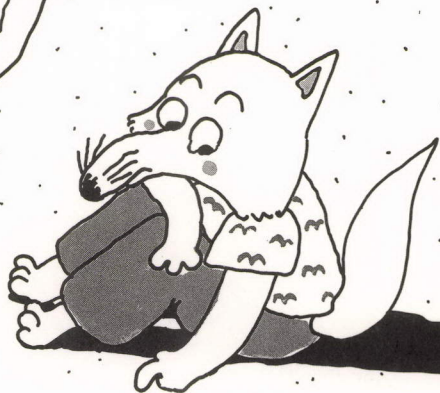
パチパチパチパチパチ

いきなり
はくしゅが、
ゾロリの　うしろから
きこえてきました。
ゾロリが　ふりかえると、
ぼーっと　すがたが
うかびあがりはじめました。

ボーー

♬かぜよ　なみよ　うみよ
ヨットの　ほのように
まるごと　おれさま
つつんでおくれ
ほしよ　なぎさよ　すなはまよ
なかせておくれ
ほうれんそうマンを
あいつの　なきがお
みたいのよ　♪♪

あかるく　かがやいたようです。
「ほしと　かぜと　うみと……
そして　おれさま。こんやも
なみが、ママの　かわりに
こもりうたを　うたって
くれるぜ。」
ゾロリの　目に、うっすら
なみだが　ひかりました。

ザーッ

ザザーッ

よせては　かえす　なみの　おと。
しっとりと　ぬれた　すなはま。
おりひめぼしが　いちだんと

ほうれんそうマンの ようかいじま

みづしま志穂 さく ★ 原 ゆたか え

ほうれんそうマンの
ようかいじま

みづしま志穂 さく ★ 原 ゆたか え